

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2000年11月20日

出願番号

Application Number:

特願2000-353030

出願人

Applicant(s):

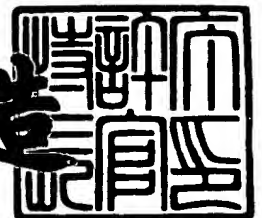
日本電気株式会社



2001年 9月 5日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3082097

【書類名】 特許願

【整理番号】 53209435

【提出日】 平成12年11月20日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04M 1/02

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

 【氏名】 尾崎 和也

【特許出願人】

 【識別番号】 000004237

 【氏名又は名称】 日本電気株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100065385

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 山下 穰平

 【電話番号】 03-3431-1831

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 010700

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9001713

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 開閉型携帯情報端末

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 表示部を有する表示部筐体と、操作部を有する操作部筐体とを備えた開閉型携帯情報端末において、前記操作部筐体の操作部面に対して前記表示部筐体の表示部面が同方向を向いた状態で、前記表示部筐体の端部と前記操作部筐体との端部を回転機構によって連結し、前記表示部筐体と操作部筐体とを前記回転機構の回転軸を中心に回転自在に構成したことを特徴とする開閉型携帯情報端末。

【請求項 2】 前記回転機構は、内部が空洞の円柱状形状で、且つ、上下に外側に向けて突出したガイド部が形成された連結部材から成り、前記上下のガイド部が前記表示部筐体内と操作部筐体内に圧接した状態で埋め込まれていることを特徴とする請求項 1 に記載の開閉型携帯情報端末。

【請求項 3】 前記回転機構の空洞部に前記表示部筐体と操作部筐体を電氣的に接続する通信ケーブルが挿通されていることを特徴とする請求項 1、2 のいずれか 1 項に記載の開閉型携帯情報端末。

【請求項 4】 前記回転機構は、前記操作部筐体の底面に対し傾斜を持って埋め込まれ、前記表示部筐体と操作部筐体を開いた状態において表示部筐体と操作部筐体とが所定の角度を持っていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の開閉型携帯情報端末。

【請求項 5】 前記回転機構の上下のガイド部は、前記表示部筐体と操作部筐体のいずれか一方に固定されていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の開閉型携帯情報端末。

【請求項 6】 前記回転機構の周囲に前記表示部筐体と操作部筐体を外側に押し付けるばねが設けられていることを特徴とする請求項 2 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の開閉型携帯情報端末。

【請求項 7】 前記表示部筐体に操作用キーが設けられ、前記表示部筐体と操作部筐体が閉じた状態で、前記操作用キーにより操作可能であることを特徴とする請求項 1 に記載の開閉型携帯情報端末。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、表示部を有する表示部筐体と操作部を有する操作部筐体を別々に有し、2つの表示部筐体と操作部筐体を開閉する構造の開閉型携帯情報端末に関するものである。

【0002】

【従来技術】

近年において携帯電話機の利用形態は、電話機としての利用形態からインターネットや電子メール、スケジュール管理等の携帯情報端末としての利用形態に変化しつつある。このような携帯電話機は、各種表示を行う液晶表示部が設けられた表示部筐体と、操作用のキーが設けられた操作部筐体がヒンジ部を中心に開閉自在に構成され、2つの筐体を折り畳む構造とすることで、大画面の液晶表示部を表示部筐体に搭載可能とし、インターネットや電子メール等の携帯情報端末として利用できるようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、このような大画面の液晶表示部を搭載可能な開閉型携帯電話機においては、2つの筐体を折り畳んだ状態においては使用者は液晶表示部を見ることができない。そのため、例えば、電子メールの着信があった時等は、液晶表示部筐体と操作部筐体を開いた状態にして表示部上の電子メールを見る必要があり、電子メールの着信毎に携帯電話機を開閉するのは、携帯情報端末として使用するためには不便であった。

【0004】

本発明は、上記従来の問題点に鑑みなされたもので、その目的は、表示部筐体と操作部筐体を閉じた状態で表示部を見ることを可能とし、利便性を向上した開閉型携帯情報端末を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記目的を達成するため、表示部を有する表示部筐体と、操作部を有する操作部筐体とを備えた開閉型携帯情報端末において、前記操作部筐体の操作部面に対して前記表示部筐体の表示部面が同方向を向いた状態で、前記表示部筐体の端部と前記操作部筐体との端部を回転機構によって連結し、前記表示部筐体と操作部筐体とを前記回転機構の回転軸を中心に回転自在に構成したことを特徴としている。

【 0 0 0 6 】

本発明においては、操作部筐体の操作部面に対して表示部筐体の表示部面が同方向を向いた状態で表示部筐体の端部と操作部筐体の端部を回転機構によって連結しているため、表示部筐体と操作部筐体を閉じた状態においても表示部筐体の表示部を見ることができ、例えば、電子メールの着信時あるいは電子手帳として使用する場合、表示部筐体と操作部筐体を開かなくても閉じたまま使用することができる。

【 0 0 0 7 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照して詳細に説明する。図 1 (a) は本発明の開閉型携帯情報端末の一実施形態の構成を示す正面図、図 1 (b) はその側面図である。なお、以下の実施形態においては、開閉型携帯情報端末として携帯電話機を例に説明する。また、本実施形態では、携帯電話機は電話機としての機能以外に、例えば、電子メール、電子手帳等の携帯情報端末の機能を持っているものとする。

【 0 0 0 8 】

図 1 において、1 は合成樹脂等から成る表示部筐体、2 は同様に合成樹脂等から構成された操作部筐体である。表示部筐体 1 には大画面の液晶表示部 3、スピーカ 4 が設けられ、操作部筐体 2 には複数のキーから成る操作部 5、マイクロフォン 6 が設けられている。また、表示部筐体 1 にも操作用キー 8 が設けられている。

【 0 0 0 9 】

表示部筐体 1、操作部筐体 2 内には、携帯電話機としての機能、あるいは電子

メール等の携帯情報端末としての機能のための回路や機構が設けられているが、これについては説明を省略する。また、表示部筐体 1 には電波を送受信するアンテナが設けられているが図 1 では省略している。表示部筐体 1 の端部と操作部筐体 2 の端部は連結部材 7 によって連結され、表示部筐体 1 と操作部筐体 2 は連結部材 7 を中心に回転できるように構成されている。

【 0 0 1 0 】

図 2 (a) は表示部筐体 1 と操作部筐体 2 の連結部を拡大して示す断面図、図 2 (b) はその平面図である。以下、図 2 (a) 、 (b) を参照して表示部筐体 1 と操作部筐体 2 の連結構造について説明する。まず、連結部材 7 は回転機構として設けられ、例えば、合成樹脂等から成っている。また、連結部材 7 は内部に空洞部 7 a が形成された円柱状形状から構成され、上下には外側に向けて突出した状態でガイド部 7 b が形成されている。連結部材 7 は図 2 (a) に示すように表示部筐体 1 と操作部筐体 2 に半々ずつ埋め込まれ、即ち、上下のガイド部 7 a がそれぞれ表示部筐体 1 内と操作部筐体 2 内の空洞部の内壁面に圧接した状態で埋め込まれている。

【 0 0 1 1 】

連結部材 7 の上下のガイド部 7 b は、表示部筐体 1 と操作部筐体 2 に対して外れないようにするため、且つ、ガイド部 7 b の外周は円形状であるから表示部筐体 1 と操作部筐体 2 が連結部材 7 のガイド部 7 b を中心に円滑に回転できるようにするために設けられている。このように連結部材 7 は表示部筐体 1 と操作部筐体 2 内にそれぞれ圧接した状態で埋め込まれているので、表示部筐体 1 と操作部筐体 2 は連結部材 7 を中心に回転することが可能である。

【 0 0 1 2 】

なお、連結部材 7 のガイド部 7 b は表示部筐体 1 あるいは操作部筐体 2 のいずれか一方に固定してもよい。また、表示部筐体 1 と操作部筐体 2 の間の連結部材 7 の外周部にばね（スプリング）を設けてもよい。即ち、ばね圧力で表示部筐体 1 と操作部筐体 2 を外側に押し付けることにより、表示部筐体 1 と操作部筐体 2 が連結部材 7 を中心に回転する時に両方の筐体が接触したり、ガタを生じたりすることなくスムーズに回転させることができる。

【 0 0 1 3 】

また、操作部筐体 2 の連結部には図 2 (a) に示すように操作部筐体 2 の底面に対して傾斜面 2 a が形成され、それに応じて連結部材 7 は操作部筐体 2 の底面に対して傾斜を持って配置されている。これは、図 1 (b) に示すように表示部筐体 1 と操作部筐体 2 を開いた状態において操作部筐体 2 と表示部筐体 1 との間に角度 θ を持たせるためである。

【 0 0 1 4 】

即ち、前述のように表示部筐体 1 にはスピーカー 4、操作部筐体 2 にはマイクロフォン 6 が設けられているので、表示部筐体 1 と操作部筐体 2 の間に角度 θ を持たせることにより、携帯電話機として使用する時に使用者の耳がスピーカー 4 に近く、使用者の口がマイクロフォン 6 に近くなるようにしている。これによって、従来の折り畳み型携帯電話機に対して受話音質、送話音質の点で劣らない特性が得られる。また、連結部材 7 の空洞部 7 a は通信ケーブル (図示せず) を通すために設けられ、空洞部 7 a に通信ケーブルを通すことによって表示部筐体 1 内の回路と操作部筐体 2 内の回路が電氣的に接続されている。

【 0 0 1 5 】

図 3 は本実施形態の携帯電話機を閉じた状態を示す図である。図 3 (a) は正面図、図 3 (b) は平面図、図 3 (c) は側面図である。携帯電話機の表示部筐体 1 と操作部筐体 2 を閉じた状態では液晶表示部 3 は従来とは反対に外側に向いており、例えば、電子メールを着信した時等は閉じたまま液晶表示部 3 に表示されたメールを見ることができ、電子手帳として使用する時も閉じたまま使用することが可能である。

【 0 0 1 6 】

また、表示部筐体 1 には操作キー 8 が設けられているので、それを操作して表示部筐体 1 と操作部筐体 2 を閉じたまま情報携帯端末として使用することが可能である。但し、この場合、表示部筐体 1 上の操作キー 8 を搭載する面積には限りがあるので、操作キー 8 は少ない数しか搭載できない。そのため、表示部筐体 1 と操作部筐体 2 を閉じた状態において、例えば、電子メールの着信時に液晶表示部 3 のメールを見る、電子手帳のスケジュールを見る等の簡単な操作を行うのに

必要なキーのみが設けられている。

【0017】

図4及び図5は操作部筐体2と表示部筐体1を開く時の様子を示す図である。表示部筐体1と操作部筐体2は連結部材7によって連結されているので、図4に示すように操作部筐体2に対して表示部筐体1を開くと、連結部材7を中心に液晶表示部1が回転する。また、更に表示部筐体1を開くと図5に示すように表示部筐体1は更に連結部材7を中心に回転し、操作部筐体2に対し表示部筐体1を180度開いた状態にすることができる。

【0018】

図6は表示部筐体1と操作部筐体2を開いた状態を示す図である。図6(a)正面図、図6(b)は平面図、図6(c)は側面図である。表示部筐体1と操作部筐体2を開いた状態では、前述のように表示部筐体1と操作部筐体2の間に角度 θ を持たせているので、通話時には使用者の耳、口がそれぞれスピーカー4、マイクロフォン6に近くなり、使い勝手が良い。

【0019】

また、このように表示部筐体1と操作部筐体2を開いた状態においては、従来の折り畳み型の携帯電話機と同様に表示部筐体1の液晶表示部3と操作部筐体2の操作部5が向かい合う形、即ち、同方向に向いているので、液晶表示部3を見ながら操作部5のキーを操作することができ、利便性が良い。更に、この状態では、携帯電話機以外に操作部6のキーを操作して、電子メール、電子手帳等の携帯情報端末として使用することができる。

【0020】

なお、以上の実施形態では、開閉型携帯電話機を例として説明したが、本発明は、これに限ることなく、例えば、開閉型の電子手帳、小型コンピュータ等の携帯情報端末にも使用することができる。また、以上の実施形態では、回転機構として内部が空洞の円柱状形状の連結部材を用いた例を示したが、本発明においてはこれ以外にも様々な回転機構を用いてもよいことはいうまでもない。

【0021】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、操作部筐体の操作部面に対して表示部筐体の表示部面が同方向を向いた状態で表示部筐体の端部と操作部筐体の端部を回転機構によって連結することにより、表示部筐体と操作部筐体を閉じた状態においても表示部筐体の表示部を見ることができる。従って、例えば、電子メールの着信時あるいは電子手帳として使用する場合、表示部筐体と操作部筐体を開かなくても閉じたまま使用することができ、使い勝手の良い携帯情報端末を実現することができる。

【 0 0 2 2 】

また、表示部筐体と操作部筐体を開いた状態においても表示部筐体の表示部と操作部筐体の操作部が向かい合っているため、従来と同様に表示部を見ながら操作部を操作することができ、利便性を損なうことがない。更に、本発明を開閉型携帯電話機に使用した場合、表示部筐体と操作部筐体を開いた状態では、表示部筐体と操作部筐体との間に所定の角度を持たせているので、使用者の耳、口がそれぞれスピーカー、マイクロフォンの近くに位置し、携帯電話機として使い勝手が良い。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の開閉型携帯情報端末の一実施形態の構成を示す図である。

【図 2】

図 1 の実施形態の携帯情報端末の連結部を拡大して示す図である。

【図 3】

図 1 の実施形態の携帯情報端末が閉じた状態を示す図である。

【図 4】

図 1 の実施形態の携帯情報端末が開く時の様子を示す図である。

【図 5】

図 1 の実施形態の携帯情報端末が開く時の様子を示す図である。

【図 6】

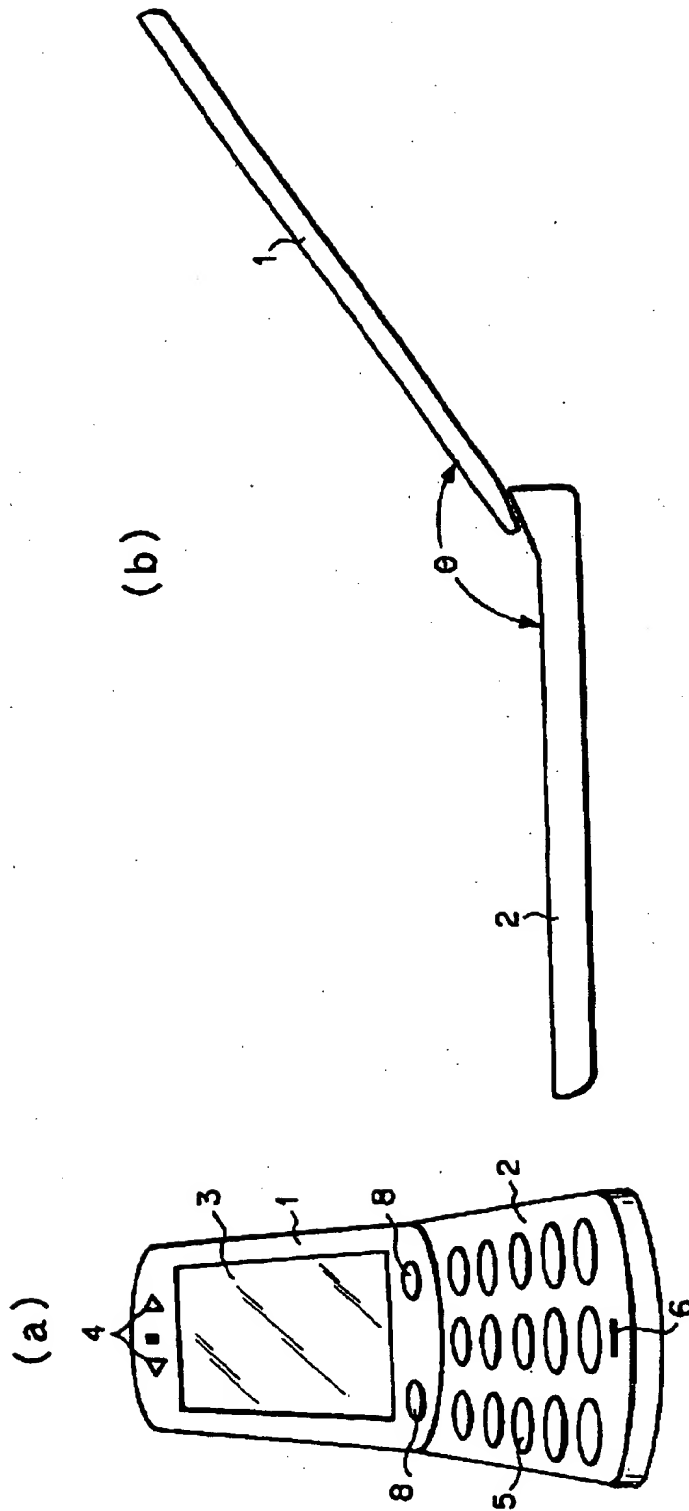
図 1 の実施形態の携帯情報端末が開いた状態を示す図である。

【符号の説明】

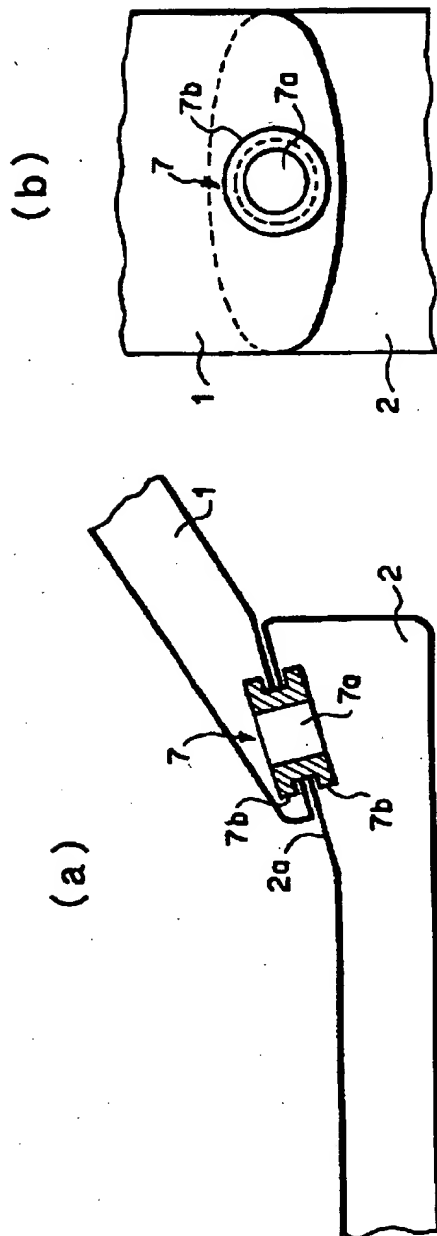
- 1 表示部筐体
- 2 操作部筐体
- 2 a 傾斜面
- 3 液晶表示部
- 4 スピーカー
- 5 操作部
- 6 マイクロフォン
- 7 連結部材
- 7 a 空洞部
- 7 b カイド部
- 8 操作用キー

【書類名】 図面

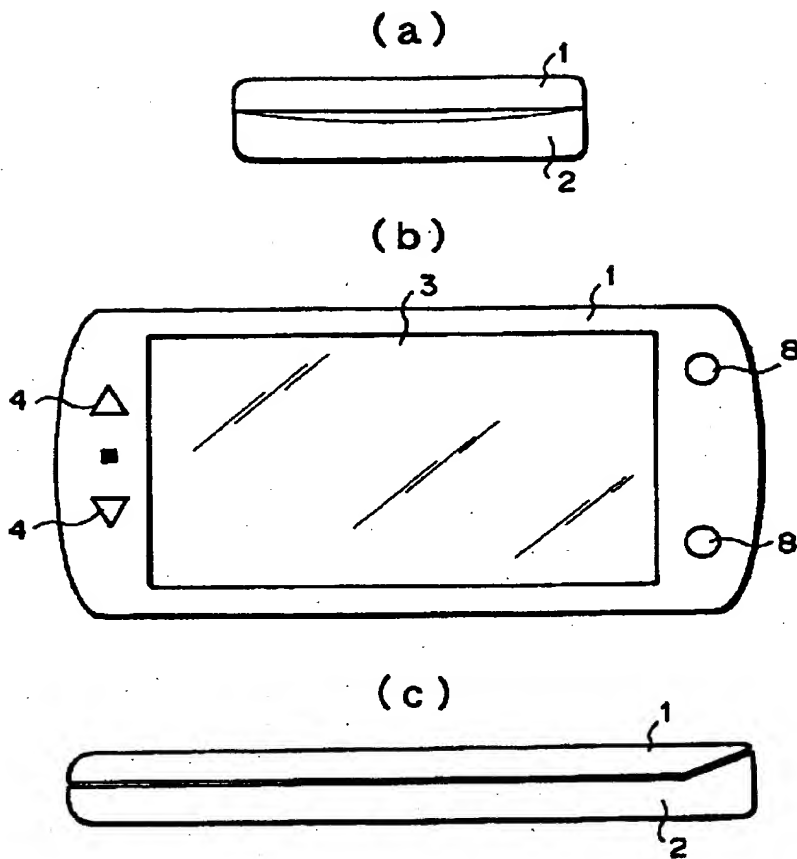
【図 1】



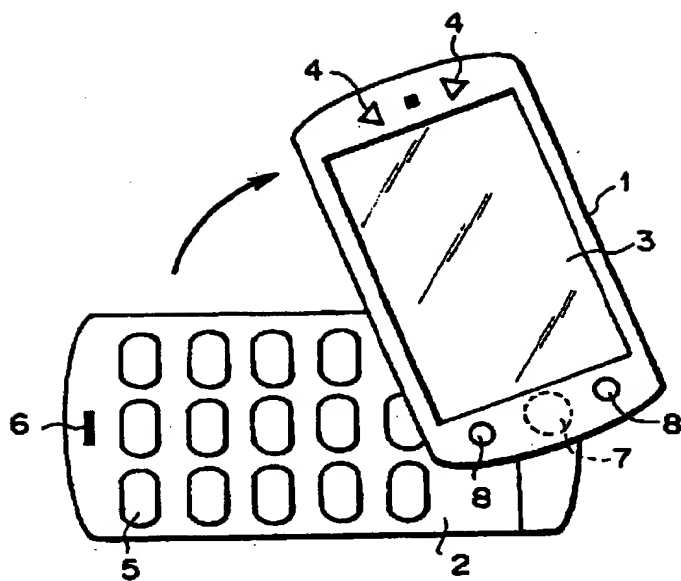
【図 2】



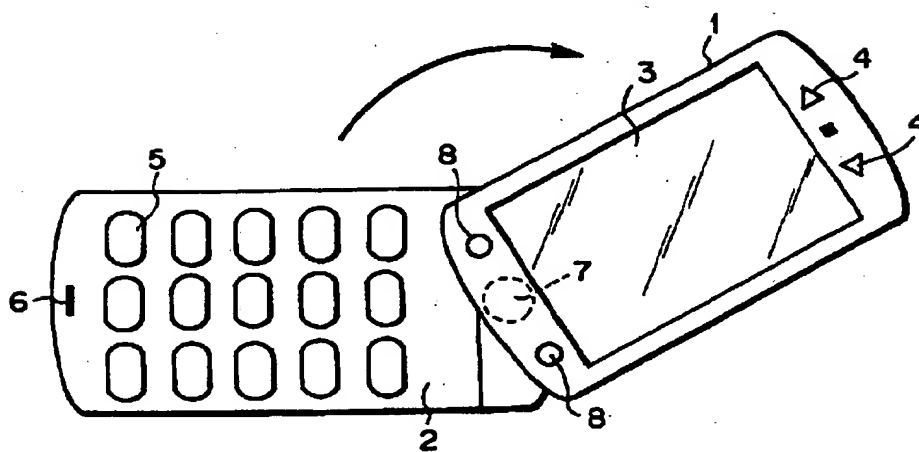
【図 3】



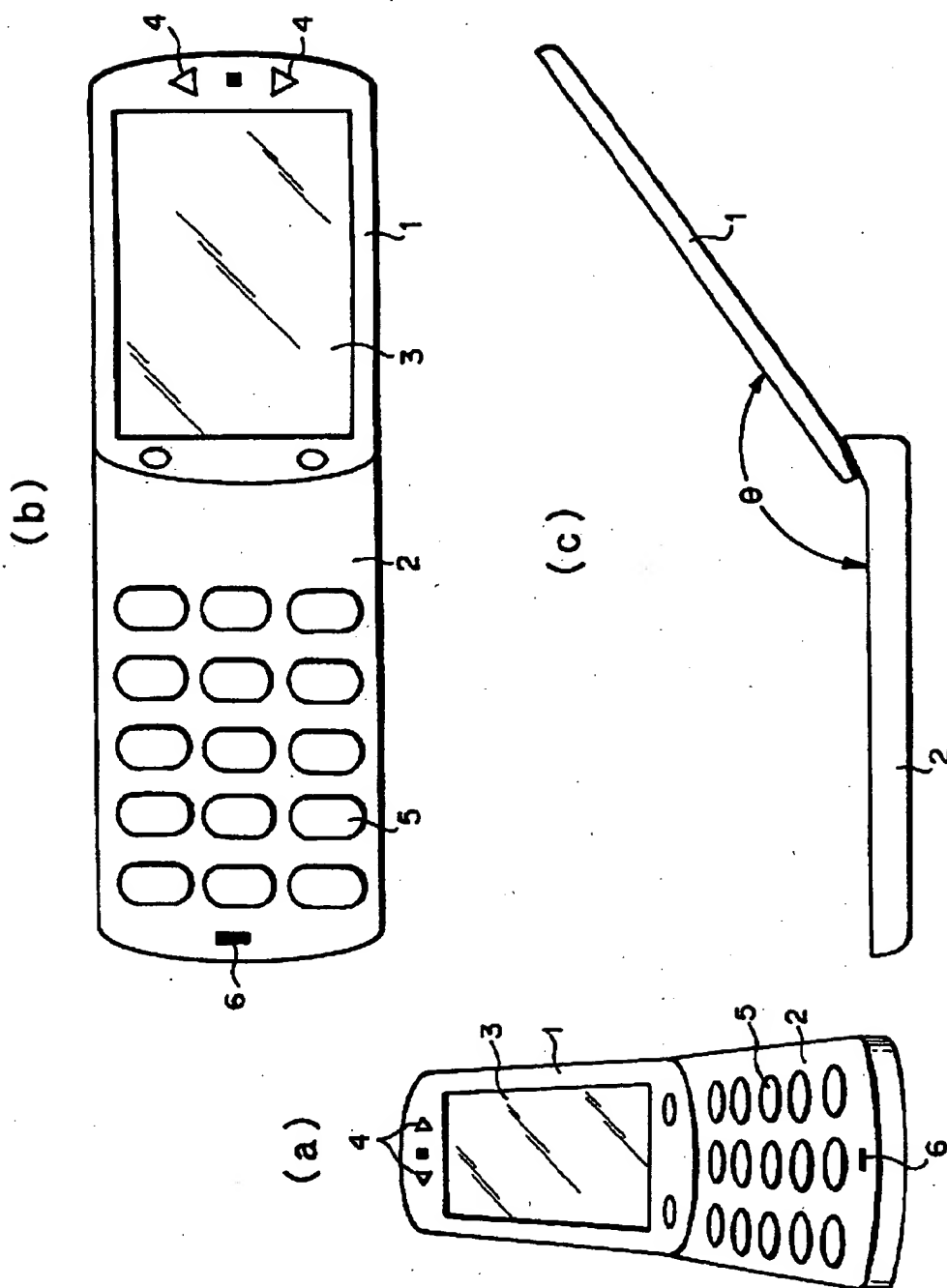
【図 4】



【図 5】



【図6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 従来の折り畳み型構造の携帯電話機では折り畳んだ状態では液晶表示部の内容を見ることができないので、開く必要があり不便である。

【解決手段】 表示部 3 を有する表示部筐体 1 と、操作部 5 を有する操作部筐体 2 とを備えた開閉型携帯電話機において、操作部筐体 2 の操作部面に対して表示部筐体 1 の表示部面が同方向を向いた状態で、表示部筐体 1 の端部と操作部筐体 2 との端部を連結部材 7 によって連結し、表示部筐体 1 と操作部筐体を連結部材 7 の回転軸を中心に回転自在に構成する。

【選択図】 図 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004237]

1. 変更年月日 1990年 8月29日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都港区芝五丁目7番1号
氏 名 日本電気株式会社